

# 海士町立海士中学校 第1学年 国語科学習指導案

日 時：平成26年10月23日（木）3校時  
指導者：永原 富貴子

1. 単元名 故事成語を使って体験文を書こう  
～表現を工夫して書こう～ （「国語1」光村図書 平成24年）

## 2. 単元のねらい

○日常生活を振り返り、故事成語に合った体験文を意欲的に書こうとする。

【国語への関心・意欲・態度】

○日常の体験から得た教訓と故事成語に込められた意味の共通点を整理し、段落の役割や表現の工夫を考えて文章を書くことができる。

【書く能力】

○辞書を活用し、伝えたい内容を表すのにふさわしい語を考え、学習漢字を適切に使って文章を書くことができる。

【言語についての知識・理解・技能】

## 3. 学習の基盤 （※生徒観は省略）

○単元・教材観

本単元は、日常の体験を言い表すのにふさわしい故事成語を探して文章を書くことをねらいとしている。故事成語やことわざ、慣用句は自分の伝えたいことを端的に表現する手段の一つとして大変効果的である。比較的短い言葉で、分かりやすく印象的に表現することができるからである。このように、論理的な文章を書くことはもちろん、故事成語を比喩的に使って文章の要点を伝えることも、生徒が言語能力を高め、豊かな言葉の使い手となるために必要な力である。

本単元で書く作文は比較的短く、段落構成も分かりやすい。テーマも前単元で学習した「故事成語」を活用したもので、生徒は興味を持って学習に臨めるのではないかと考える。体験と故事成語の共通点を整理し、それをうまく結びつけるために構成を考えて書くことで、文章を構成する力を付けることができる。上述のような実態の生徒にとって、「故事成語に沿った自分の体験」という視点があることは、書く材料を集め、整理する力を付ける上で効果がある。さらに、自分の書いた文章を読み返し、主語と述語の整った文の書き方を考えたり、より適切な語句を使って読みやすい文章にしたりする過程も大切であると考えられる。更に、前単元で「読むこと」の学習として扱った故事成語を再度取り上げることで、故事成語への理解が深まることも期待できる。

○指導上の工夫

短い文章ではあるが、作文を苦手とする生徒にとってはやはり抵抗があると思われる。そこで、教科書の作文例以外にも、過年度の生徒が書いた作文などを示し、どのように書けば良いかを具体的に示す。また、文章を書く際には、

①故事成語の意味に沿った自分の体験を題材にする。

②故事成語そのものを必ず文章中に使う。

③ 200字以上220字程度、2段落構成で書く。

という条件を設定し、どのような作文を書けばよいか見通しが持てるようにする。

①については、自分の体験と結びつく故事成語をなかなか見つけられない生徒が多いことが予想される。そこで、副教材として使用している「基礎の学習 国語1（新学社発行）」に掲載されている26の故事成語と、境港市観光協会発行の冊子「漫画 故事成語」を参考にして、自分の体験と結びつく故事成語を探すようにする。その上で、故事成語と合致する体験を想起することができない生徒には、生徒の体験と結びつきそうな故事成語を資料の中からいくつか提示し、どうしても見つけられない生徒には、身近な人の体験を取り上げて良いこととする。

体験文を書く際には、段落の分け方や、書き出しや結びの表現など、条件内で工夫をして書くようにさせたい。構成や表現の工夫を意識させるための手立てとして、以下のような工夫をする。

A 作文構成表を使い、体験、故事成語、書き出しなどの項目をメモし、それらをもとに構成を考えさせる。

B 下書き用の原稿用紙は250字程度にしておき、ある程度自由に書かせる。

実際に書く活動の際には、辞書を机上に準備し、言葉の意味を調べながら書くことができるようにする。また、適切な言葉を見つけるために類義語辞典等を活用することも取り立てて指導したい。

書いた体験文は互いに読み合ったり、校内に掲示したりすることで学習の振り返りとするとともに、「今度は自分もその言葉を使ってみよう」という意欲を育てたい。

#### 4. 単元の評価規準

| 国語への<br>関心・意欲・態度                     | 書く能力  | 言語についての<br>知識・理解・技能                             |
|--------------------------------------|---|---|
| ①日常生活を振り返り、故事成語に合った体験文を意欲的に書こうとしている。 | ①故事成語を使って、自分の体験が読み手に伝わるように、段落の役割や表現の工夫を考えて書いている。<br>(イ) | ①辞書などを活用し、伝えたい内容を表すのにふさわしい語を考えている。<br>(1) イ (イ) |

#### 5. 単元の指導計画および評価計画 (全5時間)

| 次 | 時 | 目 標                  | 学 習 活 動  | 評 価 |   |   |   |
|---|---|----------------------|--|-----|---|---|---|
|   |   |                      |  | 国語  | 書 | 語 | 評価規準 (評価方法)                                       |
| 1 | 1 | 故事成語を使った体験文の書き方を知ろう。 | ①自分の生活の中から、故事成語「漁夫の利」が表す意味と似たような体験を思い出す。<br>②「体験文の例」を読み、体験文の構成や書く際の条件を確認する。<br>③さまざまな故事成語を調べ、自分の体験と結びつきそうな故事成語を探す。 | ○   |   |   | 【国】 故事成語を使って文章を書く価値について理解し、興味をもって故事成語を調べている。(ノート) |

|   |   |  |   |   |   |  |
|---|---|--|---|---|---|--|
| 2 | 1 | 体験文に使う<br>故事成語と体<br>験を考えよう。                  | ①日常生活の中から、調べた故事成語と<br>同じような経験をしたことがあるか考え<br>体験文に使う故事成語を決め、作文構成<br>表に書く。 | ○ |   | 【国】 故事成語の意味、由来<br>を理解した上で、テーマにす<br>る故事成語を選んでいる。<br>(ノート・作文構成表) |
|   | 1 | 作文構成表を<br>使って、作文<br>の構成や書き<br>方の工夫を考<br>えよう。 | ① 体験文の構成を考えて作文構成表を書<br>く。<br>② グループで作文の構成について助言<br>しあう。                 |   | ○ | 【書】 作文の条件に沿って、<br>構成の工夫を考えながら下書<br>きをしている。<br>(作文構成表)          |
|   | 1 | 作文構成表を<br>もとに、体験<br>文を書こう。                   | ① 作文構成表に基づいて体験文を書く。   |   | ○ | ○  |
| 3 | 1 | 体験文を互い<br>に読み合い、学<br>習のまとめを<br>しよう。          | ①書いた文章を友だちと読み合い、学習<br>を振り返る。  | ○ |   | 【国】 故事成語を使って体験<br>を伝えることの効果や価値に<br>気づき、学習のまとめを書い<br>ている。(ノート)  |

## 6. 本時の学習 (第2次 2時間目)

○本時のねらい 構成の工夫を考えながら作文構成表を書くことができる。【書く能力】

○本時の展開

| 学 習 活 動  | 教 師 の 支 援  | 評価 (評価方法) |
|--|--|-----------|
| 1. 百人一首をする。(6分)  | ○返事、必要以外のことを話さないなど、ルー<br>ルを守れない生徒には適宜指導する。<br>○前時を簡単に振り返り、学習のつながりを意<br>識させる。 |           |
| 2. 本時の学習のねらいを確認する。<br>作文構成表を使って、作文の構成や書<br>き方の工夫を考えよう。(5分) |  |           |

|  |  |  |
|--|--|--|
| <p>3. 作文構成表を使って作文の構成を考える。(20分)</p> <p>○内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・いつ どこで 誰が どうした</li> </ul> <p>○体験文の構成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・段落の分け方を考える。</li> <li>・各段落の内容を考える。</li> </ul> <p>4. グループで作文の構成について話し合う。</p> <p>○視点・故事成語と体験が合っているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・二段落構成の組み立て方は適切か。(10分)</li> </ul> <p>5. グループでの助言をもとに、作文の構成を再考する。(5分)</p> <p>6. 本時のふり返しを書く。(3分)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ノートに、今日の課題についてのふり返しを書く。</li> <li>・構成の工夫を考えながら作文構成表を書くことができたか。</li> </ul> <p>7. 本時のまとめと次時の予告を聞く。(1分)</p> | <p>○作文構成表の記入例を配布し、書き方がわからない生徒が参考にできるようにする。</p> <p>○付箋を配布し、付箋には一枚に一つの事柄を書くように指示する。</p> <p>○場面が変わるところで段落が変わること、ワークシートの上段に「まとめたこと」、下段に「具体例」を貼ることを説明する。</p> <p>○二段落目の最初にどんな接続語を使えば良いかを考えるよう助言する。</p> <p>○構成ができた生徒には先に原稿用紙を渡し、下書きをさせる。</p> <p>○3人のグループを組む。</p> <p>○自分の作文構成表を見せながら、困っていることや工夫したところなどを伝え合う。</p> <p>○グループで互いの発表を聞き、視点にもとづいて助言をしたり感想を伝えたりさせる。</p> <p>○数人の振り返りを発表させ、本時の学習内容を全体でふり返る。</p> | <p>☆付箋を並べ替えながら、各段落に書く内容を考えている。</p> <p>【書く能力】<br/>(作文構成表)</p> |
|--|--|--|

○本時の評価

|      | 十分満足できるとされる<br>生徒の具体例                       | おおむね満足できるとされる<br>生徒の具体例              | 支援を必要とする<br>生徒への指導の手だて                  |
|------|---|--------------------------------------|---|
| 書く能力 | 段落の構成を考えて付箋を並べ、文章の展開や工夫を考えながら、作文構成表を作成している。 | 付箋に書く内容を記入し、段落ごとに分けて並べて作文構成表を作成している。 | 付箋に書いている内容を見て、足りない項目を指摘し、並べ方についての助言をする。 |

○授業研究の視点

- ・作文構成表や付箋を使ったり、グループで意見交換を行ったりしたことは、生徒が体験文の構成を考えるために有効であったか。